

教 員 氏 名	小柳津 和博	職 位	准教授
最 終 学 歴	静岡大学大学院・愛知教育大学大学院 教育学研究科 後期博士課程 共同教科開発学専攻 修了（2024 年 9 月）		
学 位	博士（教育学）		
役 職	連合入試委員長	委員会	入試委員会 実習委員会
担 当 科 目	・ 障害児保育 ・ 肢体不自由児の心理・生理・病理 ・ 肢体不自由教育論Ⅰ ・ 病弱教育論 ・ 重複障害等教育論 ・ 特別支援基礎論 ・ 医療保育Ⅱ ・ 教職実践演習（幼・小） ・ 総合演習ⅠA、ⅠB ・ 総合演習ⅡA、ⅡB ・ 卒業研究演習Ⅰ、Ⅱ ・ 教育実習Ⅴ ・ 教育実習指導Ⅴ ・ 介護等体験 ・ 特別支援教育特論Ⅰ・Ⅱ ・ 課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
教科書・教材・教育方法の実践例	1. 自立活動に役立つ！ 体を通した発達支援《もっとも基本的なボディーワーク》肢体不自由児編 改訂版 愛知教育大学 32 頁（共著, 2010 年 11 月） 2. からだの動きを学習しよう ～肢体不自由児への今日から使える自立活動の手立て～ 三恵社 67 頁（共著, 2014 年 7 月） 3. 特別の支援を必要とする子どもの理解 ナカニシヤ出版 担当：第 1 章 2～4 節 22-33 頁, 第 3 章 1～2 節 76-85 頁 （共著, 2018 年 11 月） 4. 発達障害のある人と共に育ち合う 「あなた」と「私」の生涯発達と当事者の視点 金芳堂 担当：第 7 章 171-196 頁（共著, 2020 年 11 月）		
教育研究業績	1. 重度重複障害児への動作法を活用した指導が自立活動の 5 つの区分に及ぼす効果. 東海・北陸心理リハビリテーション研究会会報 26, 32-36. （単著, 2008 年 11 月） 2. 自立活動の五つの区分に及ぼす動作法の教育的効果 ―呼吸やコミュニケーションに変化のあった重度重複障害児の事例―. 障害者教育・福祉学研究 5, 51-57. （共著, 2009 年 2 月） 3. 特別支援学校（肢体不自由）の自立活動における重度重複障害児への実践事例. 東海・北陸心理リハビリテーション研究会会報 27, 15-21. （単著, 2009 年 11 月） 4. 重度・重複障害児における身体運動発達と視知覚認知発達の関連性. 障害者教育・福祉学研究 7, 1-8. （共著, 2011 年 2 月） 5. 自立活動における動作法を活用した指導の教育的意義―重度・重複障害児を射程とした理論的考察―. 障害者教育・福祉学研究 9, 31-38. （共著, 2013 年 2 月）		

	月) 6. 医療的ケアを必要とする重度・重複障害児への自立活動の指導 ―体の動きを通した学習は「健康の保持」への有効な手立てと成り得るか―. 障害者教育・福祉学研究 11, 141-147. (共著, 2015 年 3 月) 7. 医療的ケアを必要とする重度・重複障害児への体の動きを通した自立活動の指導が「健康の保持」に及ぼす効果. リハビリテーション心理学研究 41 (1), 15-24. (共著, 2015 年 10 月) 8. 自立活動における応重力姿勢の経験が認知活動および呼吸機能に及ぼす効果に関する実践的研究 呼吸障害のある重度・重複障害児を対象として. 特殊教育学研究 53 (4), 285-295. (共著, 2015 年 12 月) 9. 自立活動としての動作法を考える ～障害の重い肢体不自由児の事例から～. 東海・北陸心理リハビリテーション研究会会報 35, 4-8. (共著, 2017 年 12 月) 10. 病気のある子どもの育ちを考える ―医療的ケア児の育ちを支えていくために―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 17, 77-88. (共著, 2018 年 3 月) 11. 神経・筋疾患の子どもに必要な保育・教育支援に関する研究 ―保育内容及び自立活動の視点からの検討―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 17, 65-76. (共著, 2018 年 3 月) 12. 特別な支援を必要とする子どもの理解と対応に関する研究 ―保育所に在籍する子どもの行動に着目して―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 18, 13-23. (単著, 2018 年 10 月) 13. 障害のある子どもの主体を探究する動作法の実践. チャイルドエデュケア研究所年報 16, 7-8. (単著, 2019 年 3 月) 14. 特別な支援を必要とする子どもの理解と対応に関する研究 (2) ―放課後児童クラブに在籍する子どもの行動に着目して―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 19, 59-69. (単著, 2019 年 3 月) 15. インクルーシブ保育・教育に必要な支援方法に関する研究 ―肢体不自由児を含む集団における子ども同士の関わり合いを促す支援―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 20, 51-60. (単著, 2019 年 10 月) 16. タイでの動作法による障害児支援から見てきたこと. 東海・北陸心理リハビリテーション研究会会報 35, 4-8. (単著, 2019 年 12 月) 17. インクルーシブ保育・教育における専門性の検討 ―保育者の自己評価を基にした考察―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 21, 75-83. (単著, 2020 年 3 月) 18. インクルーシブ保育における関わり合いの意義 ―重症心身障害児と共に学ぶことによる教育的価値を考える―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 22, 27-37. (単著, 2020 年 11 月) 19. 重症心身障害児者を同胞にもつきようだいの障害理解の変容過程. 保健の科学, 62 (2), 135-140. (単著, 2021 年 2 月) 20. インクルーシブ教育システムの推進に関わる現状と課題 ―海外のインクルーシブ教育施策を基にした検討―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 23, 73-83. (単著, 2021 年 3 月) 21. 日本型インクルーシブ教育システムにおける課題の可視化 ―米国の特別教育施策を基にした検討―. 桜花学園大学保育学部研究紀要 24, 21-33. (単著, 2021 年 11 月) 22. 障害児・者をきょうだいに持つ人の思いの変容 ―姉を対象とした考察―.
--	---

	桜花学園大学保育学部研究紀要 26, 97-109. (共著, 2022 年 11 月) 23. インクルーシブ保育における子ども同士の関わり合いを促す保育者の専門性—重症心身障害児を含む集団に着目した質的研究—. リハビリテーション心理学研究 48 (1), 51-63. (単著, 2022 年 11 月) 24. 重症心身障害児を含む集団での子どもの育ち —インクルーシブ保育として共に育つ視点を考える—. 桜花学園大学保育学部研究紀要 27, 15-22. (単著, 2023 年 3 月) 25. 重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 —子ども同士の関わり合いを促す活動内容・参加方法に関する保育者の創造力—. 教科開発学論集 11, 1-9. (単著, 2023 年 3 月) 26. 医療的ケアを要する重度・重複障害児への自立活動の指導 —身体の動きを主とした学習の重点と教師の専門性—. 育療 73, 33-37. (単著, 2023 年 9 月) 27. インクルーシブ保育における保育者の専門性可視化 —重症心身障害児を含む集団の保育における子ども同士の関わり合いを促す支援—. 静岡大学大学院・愛知教育大学大学院 教育学研究科 後期博士課程 共同教科開発学専攻 博士論文. (単著, 2024 年 9 月) 28. 重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性—子ども同士の関わり合いを促す活動内容・参加方法に関する保育者の創造力—. 桜花学園大学保育学部研究紀要 30, 33-45. (単著, 2024 年 11 月) 29. インクルーシブ教育システム推進に関わる現状と課題 —副次的な籍の活用と交流及び共同学習—. 桜花学園大学保育学部研究紀要 31, 37-43. (単著, 2025 年 3 月)
所属学会	1. 日本保育学会 2. 日本特殊教育学会 3. 日本リハビリテーション心理学会 4. 日本育療学会 5. 東海体育学会